

## 代 表 事 例 概 要

### < 地域整備部門 >

#### 「旭川市旭山動物園」 （北海道 旭川市）

旭山動物園では、年間入場者数が 26 万人にまで落ち込んだ 1996 年以来、動物園の再生に向けてスタッフがアイデアを出し合い、動物の持っている本来の能力を見せる「行動展示」手法を用いた展示施設の整備を始めた。加えて飼育スタッフの手づくりの看板、イラスト作成、蓄積した飼育ノウハウを活かした飼育体験や教育ガイド、野鳥観察会など教育プログラムの充実などソフト面での工夫により魅力が高まった。その結果、平成 16 年度の 7,8 月の月間入園者数は日本一を記録し話題となり、その年の入園者数も 145 万人に達し、地域全体のシンボルとして多くの人に利用されるようになった。

また、動物園に関心を寄せる市民有志が集まり設立された「NPO 法人旭山動物園くらぶ」や「読み聞かせの会」などと連携し、地域の理解と協力を得ながら、さらなる動物園の魅力づくりが進められている。

#### 「三島市街中がせせらぎ事業」 （静岡県 三島市）

街中がせせらぎ事業は、中心市街地にある水辺や緑の自然空間や歴史・文化資源を活用し、それをネットワーク化した回遊ルートを整備することによって、快適な空間を創り上げ、「歩きたい街」、「住みたい街」を市民や企業、NPO が役割分担を持って協働でつくっている。

本事業では、官民の協働が計画策定に留まらず、市民主導の計画策定の成果として、市民自らが行動していく活動（環境改善活動、清掃活動、イベント等）が多く見受けられる。

この結果、市民の憩いの場、自然学習の場としての利用に加え、イベントが多く開催されるようになり、観光客も整備前に比べて約 8 倍に増加するなど、地域の活性化に貢献している。

## <地域活動部門>

### 「1級河川寝屋川の再生と市民活動・まちづくり」

(寝屋川再生ワークショップ・ねや川水辺クラブ/大阪府 寝屋川市)

コンクリートと矢板、フェンスで囲まれ、忘れ去られた川寝屋川を市のシンボルにふさわしく、自然豊かで市民が憩える魅力ある空間に再生するため、市の公募による61名の委員から組織されるワークショップにより「寝屋川再生プラン」がとりまとめられた。このワークショップでは、寝屋川の整備にとどまらず、川を活かしたまちづくり(案)を提案し、市民や関係機関にアピールした。

また、委員自らが多くの広く市民に呼びかけ、自主組織「ねや川水辺クラブ」を結成し、クリーンリバー作戦を始めとする市民参加の様々な活動を展開している。これら計画立案から工事・維持管理・評価に至るあらゆる段階での市民の参画は、議論や共同作業を通じて地域の連帯感を生み、寝屋川を市のシンボルにふさわしい川に押し上げるとともに、地域の再生に寄与している。

### 「地域通貨「フシノ」を活用した流域連携づくり」

(榎野川の源流を守る会/山口県 山口市)

榎野川流域の住民が連携を図り、この流域の豊かな自然を次世代に引き継いでいくことを目的として、地域通貨「フシノ」を活用して、河川・海岸清掃作業等のボランティア活動の人的交流、地域間交流の輪を広げている。「フシノ」はボランティア活動参加者に、榎野川流域地域通貨検討協議会より配布され、その「フシノ」により、協力店でサービスが受けられるという仕組みになっており、「フシノ」を媒体とし、環境保全活動、人の交流や物の循環が進められている。平成15年度より、「フシノ」モデル実験が開始され、当初は4店舗だった協力店が、現在は38店舗に増加し、ボランティア活動参加者も増え、「フシノ」の発行額は180万フシノ(180万円)を越えており、そのプロジェクトがさらなる村づくり、地域の活性化に貢献している。

今後、地域通貨「フシノ」の流通状況を分析することで、交流を推進する為に何が必要か明らかになってくると思われるので、今までの取り組みのフォローアップ等を十分行うことにより、さらなる飛躍を期待したい。

## <大賞部門>

### 「武家屋敷」 （秋田県 仙北市）

角館町は、角館城の城下町として栄え、今もその面影を色濃くとどめた街並みが残されており、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

住民が、この街並みを町全体の財産として誇りを持ち、また、連携を深めることを目的に初期消火活動の「北部地域自主防災会」を発足させ、貴重な文化財の保護に努めている。さらに、観光客に武家屋敷の歴史と文化をもっと広く知ってもらうため「かくのだて歴史案内人組合」が結成され、町の魅力向上に努めた結果、手づくり郷土賞受賞当時約 130 万人だった観光客が、平成 15 年度には、約 250 万人に増加している。

### 「小野川周辺の町並」 （千葉県 佐原市）

市と県により先導的に行われた小野川兩岸の道路のガードレールの擬木化や景観に配慮した街路灯の整備、川からの荷揚げ場である「だし」の復元等の景観整備や昭和 62 年の手づくり郷土賞の受賞がきっかけとなり、小野川とその周辺に残る歴史的町並みが、地域住民の貴重な財産であることが再認識されていった。

この結果誕生した住民団体の「小野川と佐原の町並みを考える会」が町並みの素晴らしさと保存の大切さを訴え続け、町並み保存条例（平成 6 年度）重要建造物群保存地区の選定（平成 8 年度）へとつながっていった。また、この間に発足した「観光ボランティアの会」による町並み観光案内は、佐原の名物になりつつあり、観光客は平成 16 年度には約 36 万人に達している。

### 「小松川境川親水公園」 （東京都 江戸川区）

小松川境川親水公園は、江戸川区の中心部を流れていた排水路が不要となったのを契機に、新中川からの取水を浄化し、清流を蘇らせたものである。隣接する公共施設、近隣公園と一体的な緑化整備が図られ、水遊びの拠点として、川原、階段護岸などを設置、水と緑の四季の変化に富んだ自然景観が創造されている。

設計当初から各種住民団体が参加し、完成後は地域の自治会、子供会が主体となって「小松川境川親水公園を愛する会」が誕生し、祭りや清掃活動を実施するなど地域住民に愛され、人々の安らぎ、ふれあいの場となっている。

### 「竹富町家並」 （沖縄県 竹富町）

竹富島は、石垣島の南西に位置する小島で、赤瓦の屋根、家々を囲む石垣、白く整然とした道、緑の木々など昔ながらの沖縄の姿をとどめている。

竹富島の集落は住民が守り育ててきた素朴な石垣の芸術であり、伝統文化や自然環境に対する住民の意識は非常に高く、昭和 61 年度には「竹富島憲章」を制定し、それに基づいて現在に至るまで、毎日朝夕に道路の清掃、除草、花木の手入れを行っている。また、昭和 62 年には、重要伝統的建造物群保存地区にも指定され、住民、行政が一体となって集落の良好な景観を保っている。さらには、観光

資源として、手づくり郷土賞受賞当時の昭和61年度では約9万人だった観光客が、平成16年度では約36万人に増加している。